

異常な年休取得実態

月一度の年休争奪合戦

わが社の某乗務員職場では、毎月1日正午に会議室にて年休取得をかけたバトルが繰り広げられています。内容を簡単に言うと、翌月の1日から31日までの31枚の年休申し込み用紙があり、1日の分から順に、計31回、パーティ用の「ビンゴマシーン」を回し、若い数字を引き当てた人から順番に、申請簿の上の方から名前を書いていくといった流れです。この場合、当然、乗務中の方もいるため、争奪戦には参加出来ず、次の月の年休取得の可能性がほぼ失われるといった不公平が発生しています。そのため、中には、1日の争奪戦に参加するために、前の月からそのための年休を申請している方も少なくないといったように、笑うに笑えない状況です。年休が欲しければ、毎月1日に「ビンゴ」をしに職場まで出て来ることが最低条件ではあるのですが、ゲームを勝ち抜いて申請簿の一番上に名前を書いても必ず取れるとは限りません。実際に、「今月、一番でも取れなかった」との声も多数。「職場要員をもっと増やせ」と会社に主張していくのが労働者意識というものですが、「今後は不公平解消のため、『抽選』にしようか」といった頓珍漢な議論に発展するなど、事態は病的に深刻です。

社員がネコ呼ばわりされる会社

我々労働組合も会社に対し、「皆が年休を完全消化できるだけの職場要員を確保されたい」と要求を出し続けているのですが、会社側の回答は、「必要要員は確保している。後は職場でのコミュニケーションの問題」「同じ日に年休申請者が集中すれば、当然、取得できない人は出てくる」といったようなとぼけたものばかり。現に勤務担当者は「人が足りない」と言っているし、**時季変更権の行使に関しては、労働者側から申し出るものではない**。一体、何のコミュニケーションが必要なのか。また、要員が不足した職場では、当然、**同じ日に2〜3人が申し込んだだけで、「集中」した状態になってしまいうわけだから**、こうしたまるでロボットにでも喋らせているかのような回答は、私たち労働者の感情を逆撫でするものでしかありません。ちなみに、わが社には「勤務マツチング」「猫の手も借りたい」（ネコカリ）といった超勤システムがあり、実際に、自分の時間で車掌業務や、他職場の補助業務を行っている社員も多いことから、会社全体が要員不足に陥っているのは自明です。これについても会社は開き直ります。「ネコカリ等は、要員不足を補うためのシステムではない。空き時間を有効活用したい社員のやる気を後押しするものである」。だとしたらかえって問題です。超勤とは、その法的趣旨から、やむを得ず行うもの。過重労働をドヤ顔で推進する優良企業、がどこにあるでしょうか。



第 198 号

2025 年 5 月 1 日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

NTT 092-483-1515